

H29年度の年金額等 - 1

H29. ●●● 使用

【課題・2●●】 <H29年度の年金額>

H29年度の年金額の関連を整理します。(Press Release 他も参照)

1. 結論として、H29年度の年金額は前年度から -0.1% 減額です。 …… 国 27条
- ◇ 満額の基礎年金額 : **779,300円** (月 64,941円、▲67円) ← $780,900 \times 0.998 = 779,338$ 円
 - ◇ モデル世帯の月額 : **221,277円** (月額、▲227円) ← 前年 : 221,504 円

2. H29年度の各指標は<年金塾・資料 H29-1>、厚年・再評価率 は<同-2> を参照 …… 国 27条の2

◆ 消費者物価指数 (CPI) の推移

H27 基準	H28.1月												H28年度
100	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	99.9	
H27年度	99.5	99.7	100	99.6	99.8	100.4	99.6	99.9	99.9	99.7	100.4	100.1	
100.0													

物価変動率 : $(H28 \text{ CPI}) / (H27 \text{ CPI}) = 99.8833 \dots / 100 \approx \underline{0.999}$ …… ①

◆ 実質賃金変動率 : 3年度前の前後3年間の平均

$(H27 \text{ 標報額平均} / H24 \text{ 標報額平均}) / (H27 \text{ CPI} / H24 \text{ CPI})$
 $= 3\sqrt{(383,396 / 378,476) / (103.6 / 99.7)} = 3\sqrt{(1.013 / 1.0391)} = 3\sqrt{(0.9749)} \approx \underline{0.992}$ …… ②

◆ 可処分所得割合変化率 : 3年度前の可処分所得割合変化率

$(0.91 - H26.9.1 \cdot \text{厚年保険料率} \times 0.5) / (0.91 - H25.9.1 \cdot \text{厚年保険料率} \times 0.5)$
 $= (0.91 - 0.17474 \times 0.5) / (0.91 - 0.17120 \times 0.5) = 0.82263 / 0.82440 \approx \underline{0.998}$ …… ③

◆ 名目手取賃金変動率 : ① × ② × ③

$0.999 \times 0.992 \times 0.998 \approx \underline{0.989}$ …… ④

ここで、①、②、③、④ の関係が、

④(名手) < ①(物価) < 1.0 なので 改定率は ①.物価 0.999 になる

◆ マクロ経済スライド調整率 (被保険者数の減少 (3年前・前後3年平均) × 平均寿命の延び) は適用せず

・被保険者等総数の変動 =
 $= 3\sqrt{(H27(2年前)人数 / H24(5年前)人数)} = 3\sqrt{(67,183,755 / 67,655,037)} = 3\sqrt{0.993} \approx 0.998$
 ・(65才時の) 平均余命の延び率 ≈ 0.997 (0.3%)

故に、H29年度の マクロ経済調整率は $0.998 \times 0.997 = \underline{0.995}$ になる

3. 国民年金 の 保険料改定 (率) …… 国年87条3項、5項

国年の保険料額は、H16年に定めた額 × 前年度の改定率 × 前年度名目賃金 (物価 × 実質賃金)

◆ H29年度

保険料 = $16,900 \text{円} \times 0.976 \times 1.0 (1.008 \times 0.992) = 16,494 \Rightarrow \underline{16,490 \text{円}}$ ← 16,260 (+230円)

★ H29年度以降、H16年に定めた基準額は 16,900円 に達した

◆ H30年度

0.967

保険料 = $16,900 \text{円} \times \underline{0.976} \times \underline{0.991} (0.999 \times 0.992) = 16,342 \Rightarrow \underline{16,340 \text{円}}$ ← 16,490 (-150円)

◆ H31年度以降、産前後休業 保険料免除の財源として $16,900 \pm 100 = \underline{17,000 \text{円}}$ の予定

尚、厚生年金保険の保険料率も H29.9月～、H16年に定めた 18.3% の予定

4. 標準モデル世帯の年金額の算出

・老齢基礎：779,300 / 12 = 64,941 (円/月) …… (A)

・夫老齢：428,000 × 0.974 × 5.481 / × 480 ≙ 1,096,740 / 12 ⇒ 91,395 (円/月) …… (B)

故に、2×(A) + (B) = 221,277 (円/月)

[0.974 = 0.975(H27) × 0.999]

◆ H27年、報酬比例の年金額が 特例水準⇒本来水準 変更に伴い、算出式が変更された

・～H26年までのモデル、夫の報酬比例額 (特例水準)

360,000 × 0.917 × (7.7/1000) × 480 × 1.031 × 0.961 ⇒ 98,125 (円/月) …… (C)

・H26年 標準世帯モデル、夫の報酬比例額 (本来水準)

428,000 × 0.962 × (5.481/1000) × 480 ⇒ 90,266 (円/月) …… (D)

・H27年 標準世帯モデル、夫の報酬比例額 (本来水準)

428,000 × 0.975 × (5.481/1000) × 480 ⇒ 91,491 (円/月) …… (D) × 1.014

[0.975 = 0.962(H26) × 1.014]

(【課題・162-2】・H27.2.26 参照)

5. 在職老齢年金の関係

◆ 28万円 (支給停止調整開始額)

”H17年～の 新規裁定者の実際の金額改定率の累計”

$\frac{1.0}{H17} \times 0.997 \times \frac{1.0}{H19-22} \times 0.996 \times 0.997 \times \frac{1.0}{H25,26} \times 1.014 \times 1.0 \times \frac{0.999}{H29} = 1.0028895 \dots$ …… 厚年附11条

∴ 28 (万円) × 1.00289 = 28.0809 ⇒ **28 (万円)** …… 変更なし

◆ 47万円 (支給停止調整額)

”H17年～の名目賃金変動率 (物価×実質賃金) の累計”

… 厚年46条、附11条

$\frac{1.003}{H17} \times 0.996 \times 1.002 \times 0.998 \times 1.011 \times 0.976 \times 0.98 \times 0.986 \times 0.996 \times 1.005 \times 1.025 \times 1.0 \times \frac{0.991}{H29} = 0.96847 \dots$

∴ 48 (万円) × 0.96847 = 46.4865 ⇒ **46 (万円)** …… 1万円減